

不耕起乾田直播栽培の乾田期間における 低コストな雑草防除法

不耕起乾田直播栽培では、乾田期に出芽前と出芽後入水前の2回雑草防除を行うため、除草剤費が高いことが問題になっています。そこで、安価な除草剤を組み合わせ、低コストで効果的な雑草防除技術を確立しました。

● 「カルナクス」と「ノミニー液剤」の組み合わせによる低コスト除草体系 ●

出芽前に非選択性除草剤「カルナクス」、出芽後入水5日程度前に茎葉処理剤「ノミニー液剤」を散布することで、慣行の「ラウンドアップハイロード」+「クリンチャーバス ME 液剤」体系と同等の除草効果が得られます。この除草体系により、乾田期の除草剤費は50%程度削減することができます。

表1 カルナクスとノミニー液剤を組み合わせた除草体系の防除効果と除草剤費

除草体系	残草量 (無除草区対比) ※1	10a あたり 除草剤費 ※2
カルナクス+ノミニー液剤	2.0%	2,232円(46)
ラウンドアップハイロード+クリンチャーバス ME 液剤(慣行)	3.6%	4,886円(100)

※1 残草量は初中期一発剤処理前の調査結果

※2 「カルナクス」、「ラウンドアップハイロード」は250ml/10a、「ノミニー液剤」は150ml/10a 処理で計算(H21年価格)



図1 オオニワホコリ(左)とオオクサキビ(右)

● 雑草の種類による除草剤の使い分け ●

「ノミニー液剤」と「クリンチャーバス ME 液剤」では、雑草の種類によって効果が異なります。「ノミニー液剤」はイボクサ、ハキダメギク等に、「クリンチャーバス ME 液剤」はオオニワホコリ、オオクサキビ、トキンソウ等に効果的です。

ノビエはどちらの除草剤でも効果的に防除できます。

● 「ノミニー液剤」による薬害は一時的 ●

「ノミニー液剤」は、処理後に水稻の「葉の黄化」や「茎数の抑制」等の薬害を生じさせることがあります。この症状は一時的なもので、水稻の収量に影響を及ぼすほどではありません。ただし、気温が高いとき(30℃程度)は薬害が大きくなりやすいので、所定範囲内の低めの薬量を散布します。

掲載した内容は、平成22年4月30日現在の農業登録状況に基づいています。農薬を使用する場合は、ラベルに記載されている適用と使用法及び使用上の留意点等をよく確認してください。

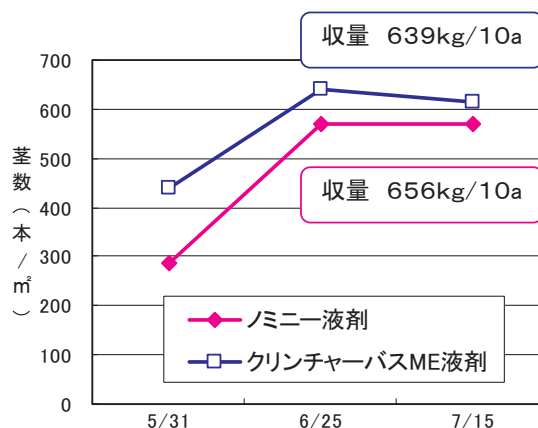


図2 ノミニー液剤とクリンチャーバス ME 液剤処理後の茎数の推移